

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

(1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

(2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

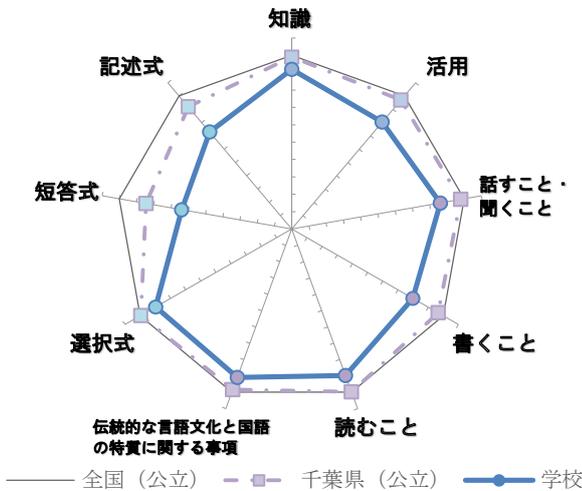
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



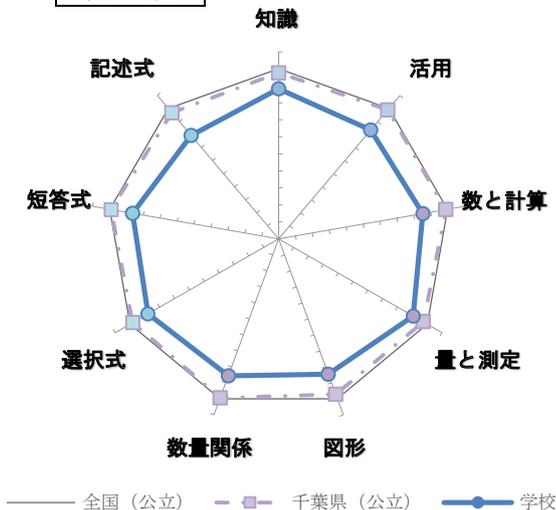
【特徴と現状】

- 全体的に全国平均より低い正答率となりました。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「読むこと」の領域は、比較的全国平均に近い正答率でした。
- 「書くこと」の正答率については、全国平均と比べて大きな差が出ました。話し手の意図を捉え自分の意見と比べて考えをまとめたり、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考え、詳しく書いたりすることに大きな課題がありました。
- 「短答式・記述式」の形式、ともに課題があります。

【改善方策等】

- 漢字の読み書きについては、朝のドリルタイムを活用したり、家庭学習を充実させたりして、繰り返し練習をしていく必要があります。毎月行っている漢字検定の合格を目標に、児童の意欲を喚起してまいります。
- 目的に応じて文章の内容を的確におさえたり、自分の考えを明確にしたりという、目的意識をもたせながら読む活動を大切にし、読解力の向上を図ります。
- 必要な事柄を書くという時間を確保し、書くことに対する抵抗感を少なくしていきます。

算数



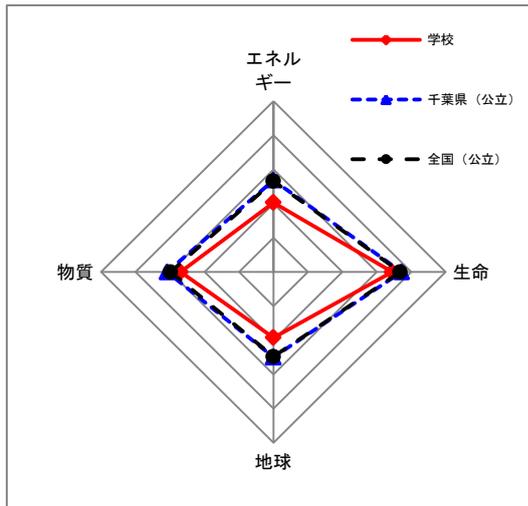
【特徴と現状】

- 全体的に全国平均より低い正答率となりました。
- 混み具合の比べ方や、 180° の角の大きさ、直径と円周の長さの関係については、全国平均に近い正答率でした。
- 1に当たる大きさを求める問題では、数量関係を理解し数直線上に表すこと、除数が小数の場合でも除法が使えることについて課題がありました。また、空間の中にあるものの位置を表す問題など、正答率は全国平均を大きく下回りました。
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさが 360° になっていることを記述する、メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化について解釈したことを記述するなどの問題も課題がありました。

【改善方策等】

- 基礎的・基本的な知識・技能を徹底させるとともに、それらを活用する力を身に付けていく必要があります。学習した事柄を、日常生活に生かしていくことも必要だと考えられます。
- 記述に大きく課題があるので、筋道を立てて考えたり、それらを図や文章で表現したりすることを日頃から重視するとともに、グループや学級で比較・検討する活動を充実させていく必要があります。

理科



【特徴と現状】

- 生命と物質の区分においては全国平均に近いです。
- エネルギーや地球に関することは、全国平均より低い値となっています。
- 野鳥のひなの観察方法や人の腕が曲がる仕組み、ろ過の適切な操作方法、光電池の適切な位置などに関する問題は全国平均に近い正答率でした。
- 堆積作用や上流の天気と下流の水位、回路を流れる電流についての問題は、全国平均を大きく下回りました。
- 科学的な思考・表現に課題が見られます。

【改善方策等】

- 土地の浸食や電流、天気と水位など、苦手と思われる分野があるので、実験だけでなく図や映像など、児童の理解を深める手立てを考えていきます。
- 川の上流や下流といった空間的な見方や、時間差で生じるといった時間的な見方を働かせることを意識させたいと思います。調べた結果や観察した内容など、複数の情報を関連付けながら処理する力を付けていきます。
- 実験では、根拠ある予想を立て、実験結果を分析し、多面的に考察する力・結論を適切に書き表す力など、科学的な思考力・表現力の向上に努めます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析

「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時間に寝ている・起きている」と回答している児童は全国平均に近く、生活習慣はよい傾向にあります。

「平日、授業以外に勉強している時間は1日1時間より少ない」と回答している児童が多くいました。さらに、授業の予習・復習の時間や、週末に勉強や読書をする時間も少なめでした。テレビやDVD、ゲーム・インターネットをしている児童は全国平均より多く、学習習慣について課題が残ります。家庭学習の時間が長い児童、自分で計画を立て予習・復習をしたり、読書をしたりしている児童の方が、正答率が高いという結果が出ました。

地域の人と関わったり、地域の行事やボランティア活動に参加したりしたことがあるという児童、また、新聞を読んでいるという児童も全国平均と比べて、少なかったです。地域や社会の出来事に興味があり、新聞を読んでいるという児童の方が正答率は高かったです。

算数の授業は好きで新しい問題を解こうとする意欲は高いものの、解き方を考えたり、それを分かるようにノートに書いたりしていると答えた児童は、全国平均より少なかったです。理科でも同じように好きではあるが、自分の考えを説明したり、発表したりすることは、少ないという結果が出ました。授業では課題の解決に向けて、自分で考え取り組んでいる、さらに、話し合い活動で自分の考えを広げることができる児童の方が、正答率が高い傾向にありました。

「自分にはよいところがある」「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」と回答している児童が多く、自尊感情は全国平均よりよい数値が出ました。

3 まとめ

- 学校では、子どもたちが課題意識をもち、自ら取り組めるように学習内容や指導方法を工夫します。学習意欲を高め、個別支援に力を入れ「わかる授業・楽しい授業」を推進していきます。基礎・基本の習得を図るとともに、それらを活用する力を身に付けるようにしていきます。自分の考えを多様な方法で書くことや、グループでの話し合い・学級での発表を増やし、表現力の向上に努めていきます。

- 学級活動や学年・学校の行事等を充実させ、児童の活躍の場を大切にします。一人一人に最後まで取り組ませ、児童の頑張りを認め自信をもたせていきます。毎日の生活や学習でも、児童一人一人のよさや頑張りを認め合う場を大切に、教師も「ほめる」指導を今後も心がけていきます。物事を最後までやり遂げ、達成感を味わわせたり、自分の良さがわかり、自己存在感や自己有用感をもたせたりし、将来の夢や目標をもてる児童の育成にさらに努めます。

- 規則正しい就寝・起床、朝食は、とても大事です。睡眠をしっかりと、朝食を毎日食べるなどの生活習慣がきちんとしている児童は、学習意欲もあり、精神的にも安定しています。「平日や週末にテレビやDVDを見たり、ゲーム・インターネットをしたりして過ごすことが多い」「授業の予習や復習・読書をしていない」「新聞を読まない」という児童も見られます。規則正しい生活リズムの確立が学習効果を上げると考えられます。家庭での過ごし方について、お子さんと話し合い、テレビやゲーム・インターネットなどのルールを決め、学習や読書の習慣をつけることも大切なことだと思われれます。

- 児童の学力の向上は、学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。学習に関することや地域・社会の様々な事柄に興味関心が向くように、また、地域の活動や行事に参加するなど、地域との関わりを深めていくことも大切です。引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いします。